

令和元年度(2019年度)高等学校OPENプロジェクト実施報告書(2年次)

研究指定校	北海道標茶高等学校	教育局	釧路教育局
-------	-----------	-----	-------

1 研究主題	
「しべパフェ」で元気な町づくりプロジェクト ～標茶町でパフェを食べてみませんか～	
2 研究実践内容	
月	実施内容 ()内は教科
4月	・2年次の生徒13名に対してこれまでのプロジェクトの内容や今後の活動方針を説明し、新たなプロジェクトメンバーを募集した。(科目:食品研究)
5月	・今年度の活動目標及び年間計画を立てた。(科目:課題研究) ・パフェのオリジナルデザインを完成させるため、パフェのテーマを設定するとともにデザイン画を作成した。(科目:課題研究)
6月	・デザイン画をもとにパフェの試作を行った。(科目:課題研究) ・パフェのテーマを設定し、デザイン画を作成した。(科目:課題研究) ・デザイン画をもとに試作を行い、完成した写真や原材料、味の感想などをクリプトン・フューチャー・メディア社に情報提供し、今後の進め方や改善点についてアドバイスを受けた。(科目:課題研究)
7月	・クリプトン・フューチャー・メディア社のアドバイスをもとに改良を繰り返し、3種類のしべパフェを完成させた。(科目:課題研究) ・3種類のしべパフェのうち、2種類のしべパフェ180食を学校祭で販売し、40分で完売させることができた。(科目:課題研究)
8月	・9月のしべパフェ販売に向けた製造練習を行った。(科目:課題研究) ・9月の販売に向けてPOPやポスター、アンケートの作成を行った。(科目:課題研究)
9月	・町内販売会で1種類のしべパフェ400食を販売し、3時間で完売させることができた。(科目:課題研究) ・販売会で商品購入者から聞き取ったアンケートをまとめ、結果を分析することにより現状把握及び次回に向けた改善点をまとめた。(科目:課題研究) ・町内販売会に向け、パフェの素材の一つとなるクッキーの製造を行った。(科目:課題研究) ・町内販売会でしべパフェ450食を販売し、3時間で完売させることができた。(科目:課題研究)
10月	・町内外から販売会に訪れた人たちに対して実施したアンケートを集計し、しべパフェの認知度や評価等をまとめた。(科目:課題研究) ・校内の成果研究発表会に向けて、情報機器を利用し、研究発表会で発表するためのスライドの作成及び発表練習を行った。(科目:課題研究)

11月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域みらい連携会議で今年度の活動を報告するために、スライドの作成及び発表練習を行った。(科目：課題研究) ・情報機器を利用し、校内の成果研究発表会で発表するためのスライドの作成及び発表練習を行った。(科目：課題研究)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域みらい連携会議において今年度の活動報告を行った。(科目：課題研究) ・広報用のロゴデザインの見直しを行った。(科目：課題研究) ・地域普及に向けたしべパフェの条件設定やチラシの作成を行った。(科目：課題研究)
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・マイプロジェクトアワード2019に向けた文章や画像の作成、発表練習を行った。(科目：課題研究) ・次年度に向けて、パフェへの想いや製造レシピ、活動の進め方などを3年次から2年次へ引き継いだ。(科目：課題研究・食品研究)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けた活動目標及び年間計画の作成を行った。(科目：食品研究)

3 地域みらい連携会議の開催内容

第 1 回	令和元年5月28日(火) 13:30~15:30 (本校)
出席者	標茶町長、標茶町農業協同組合組合長、標茶町観光協会会長 標茶町観光協会理事、クリプトン・フューチャー・メディア(株)チームマネージャー 釧路教育局、北海道標茶高等学校校長、教頭、担当教諭、標茶高校生徒
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・しべパフェ販売を地域へPRするための、デザインと方向性について ・道の駅構想の具体化に向けた町としての取組について
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・見た目に重点を置き、標茶町をモチーフにしたかわいいデザインが、高校生らしいアイデアであるが、原材料に地域の食材を使うことができないか検討すること。 ・販売する場合、衛生的な製造方法の確立が必要になるため保健所と相談しながら開発を進めていくこと。

第 2 回	令和元年8月29日(木) 10:30~12:30 (本校でのスカイプ会議)
出席者	標茶町副町長、標茶町農業協同組合代表理事組合長、 標茶町観光協会会長、標茶町観光協会理事、ミルククラウン乳業(株)会長、 クリプトン・フューチャー・メディア(株) チームマネージャー、北海道標茶高等学校校長、 教頭、担当教諭、標茶高校生徒
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・協力店舗への接続のための町民の意識高揚及びモデル店舗の募集、協力店舗への支援について ・6次産業の創造につながる町づくり構想にしべパフェの取組を組み入れること及びミルクプラント構想について
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・協力店舗へのアプローチとして、高校生はアドバイザーとして関わっていくのが良いのではないかとということ。 ・アドバイザーとして活動していくために、「しべパフェ」の条件を定め、広告やポスターの活用により広報していくこと。 ・町民の意識を変えていくため、しべパフェのロゴなどを作り、視覚的な宣伝を組み込んでいくこと。

第 3 回	令和元年12月 4 日 (水) 10 : 10～12 : 00 (本校でのスカイプ会議)
出席者	標茶町副町長、標茶町農業協同組合営農部長、標茶町観光協会会長標茶町観光協会理事、ミルククラウン乳業(株)会長 クリプトン・フューチャー・メディア(株)チームマネージャー、北海道標茶高等学校校長、教頭、担当教諭、標茶高校生徒
協議内容	・仮想道の駅「パフェ販売」総括とまちづくり総合計画への参画について ・北海道ふるさと・みらい創生推進事業「全道フォーラム」について(生徒からの報告)
指導・助言を受けた内容	・しべパフェの条件について、標茶産の牛乳を使った生クリームではなく、賞味期限の長いアイスにした方が店舗に負担が少ないのではないかということ。 ・来年度以降のしべパフェの運営を高校から町に移すために、来年度、準備委員会を立ち上げること。

4 研究の成果と課題

(1) 目的の達成状況

- オリジナルデザインの開発のために、地域の特徴や自然、生態系などを学んだことで、地域に対する理解を深めることができた。
- クリプトン・フューチャー・メディア社との協議や指導から、開発にはコンセプトやターゲット、商品のストーリー性が重要であることを学ぶことができた。
- 地方紙(釧路新聞)や町内広報誌、テレビのニュースなどのメディアに取り上げられることで、多くの町民に活動を知ってもらうこととなり、活動に対する責任や誇りを感じることができた。
- しべパフェの収益性を飲食店等に伝えることができていないため、普及に向けて、飲食店等のニーズや疑問について説明する機会が必要である。

(2) 目標の達成状況

- 美味しいだけではなく、デザインにストーリー性や特徴を盛り込んだしべパフェを3種類開発することができた。
- 町民の方に広く販売するため、ミルククラウン乳業からキッチンカーをお借りし、町内販売会等でしべパフェ計1,030食を販売することができた。
- 販売会に集まった600の方に協力いただいたアンケートから、町内の85%の方にしべパフェを知ってもらえていることが分かった。
- アンケートの結果から、町外では15%の方しかしべパフェを知らないということが分かり、町外から標茶町に人を集めるためには広くPRすることが必要である。

(3) 実践研究の規模

- 現在、取組の中心となっている酪農・食品系列の生徒が、食品企業の方から商品開発や収益性などについて、専門的な知識や技術を学ぶことができた。
- 食品系列の生徒を中心とした取組により専門性の高めることができた一方で、関わる生徒が限定されているため、今後より多くの生徒がプロジェクトに関われるよう、全体の組織構成を見直す。

(4) 研究成果の普及

- 11月下旬に本校で行った校内実績発表大会において、これまでの活動を本校生徒約210名の前で発表した。
- しべパフェに取り組む生徒の想いを広く発信するために「MY PROJECT AWARD 2019」に応募し、審査の結果2月の全道大会で発表する機会を得た。

- 取組状況を本校のウェブページに随時掲載し、周知を図っている。
- 今年度の活動で、しべパフェの認知度を高めることができたので、今後もSNSや町内広報誌を活用して定期的な情報発信をしていく。

(5) 実践研究内容

- しべパフェのデザインやコンセプトを考案する課程で、指導員の方々から材料へのこだわりや地元農家との連携、アイコンやサイズに関するアドバイスを受け、商品開発のノウハウを学ぶことができた。

(6) 地域みらい連携会議

- 連携会議メンバーを本体とした関係機関の協力で、しべパフェの製造工程の簡略化や量産化を図ることができた。キッチンカーをお借りすることで、課題となっていた野外でのしべパフェ販売を可能にし、多くのお客様にPRすることができた。
- 12月に行った連携会議では2年間活動した3年次生から、これまでの活動支援への感謝と自身の成長、抱負について報告することができた。
- 会議の開催時期については、実践研究の進捗状況などを踏まえ、柔軟に開催する必要がある。

5 プロジェクトの達成状況

(1) [評価の観点] 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について

(評価)

一部の生徒に対しては、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながる取組となった。

(評価した理由)

酪農を基幹産業とする地域において牛乳の活用について考え、消費拡大への一助となるような活動になったため。

(2) [評価の観点] 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について

(評価)

地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。

(評価した理由)

野外でのパフェ販売を可能とするために原材料やキッチンカー、ポスターによる宣伝などの支援を受け、その成果を連携会議で報告したため。

(3) [評価の観点] 生徒の主体性について

(評価)

生徒は、地域社会の一員としての主体性を持って取り組むことができている。

(理由)

地域の現状を理解し、連携企業からの支援によって高校生ならではのアイデアが詰まった商品を開発し、合計1,030食のしべパフェを販売できたため。

(4) [評価の観点] 地域課題の解決状況について

(評価)

取組により、地域課題の解決につなげることができた。

(理由)

しべパフェの活動をとおして、地域に6次産業化や道の駅構想への機運が高まっていることを感じることもできたため。

6 今後の取組

- ・飲食店で負担なく安定的に扱うことのできるパフェを提案し、高校生がアドバイザーとして支えていく仕組みを構築する。
- ・標茶町の菓子店とコラボしたしべパフェを開発し、より標茶町をアピールできるものに発展させる。
- ・釧路管内でしべパフェ販売を行い、町外から標茶町に人を呼び込む足がかりとする。
- ・学校内では、次年度の計画段階から各系列に役割を分担し、学校全体での取組へと発展させ、地域を考え地域を支える人材の育成を図る。
- ・観光協会や商工会から定期発行されている情報誌やSNSを利用し定期的に情報を発信する。

7 参考資料

(1) OPENプロジェクト指導員視察



3月12日にOPENプロジェクトの指導員の方が視察のために来校しました。実際に試作中のパフェを食べていただき、デザインやサイズについてアドバイスをいただきました。

(2) 3種類のパフェデザイン



5月には、パフェのデザインを決定しました。酪農の町標茶町の牛をイメージした「うしパフェ」、道東の広大な草原をイメージした「しべまっちゃん」、北海道東部の湿原を中心に生息する特別記念物である丹頂をイメージした「たんちょうパフェ」が形になりました。

(3) 第1回地域みらい連携会議



5月28日に行われた第1回地域みらい連携会議でしべパフェの進行状況を説明しました。形になった3種類のパフェを試食していただき、味や食感について改良点や工夫のポイントなどアドバイスをいただきました。

(4) NHKのしべパフェ取材の様子



標茶高校学校祭でのしべパフェ販売に向け宣伝活動を行っていたところ、NHK釧路放送局に興味を持っていただき取材を受けました。活動の様子は「ほっとニュース北海道」で放送されました。

(5) 標茶町産業まつりでしべパフェ販売



9月8日(日)に行われた第46回標茶町産業まつりで「しべパフェ」を販売しました。当日はミルキークラウン乳業株式会社からお借りしたキッチンカーで調理を行いました。「しべパフェ」を新聞や広報で知ったというお客様が多く、キッチンカーの前には常に列ができていた状態でした。

(6) 仮想道の駅フェスティバルでしべパフェ販売



9月22日(日)に標茶町で行われた「仮想道の駅フェスティバル」で「しべパフェ」を販売しました。用意した400食は販売開始から3時間で完売し、たくさんの応援の声をいただくことができました。標茶町に「しべパフェ」が広がってきているのを実感できる販売会となりました。